

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 7日は、低気圧が北日本付近へ進む。
- 8日から9日は、低気圧がサハリン付近を北上し、北日本中心の冬型の気圧配置となる。
- 10日から11日は、高気圧が黄海付近から東日本付近に移動する。

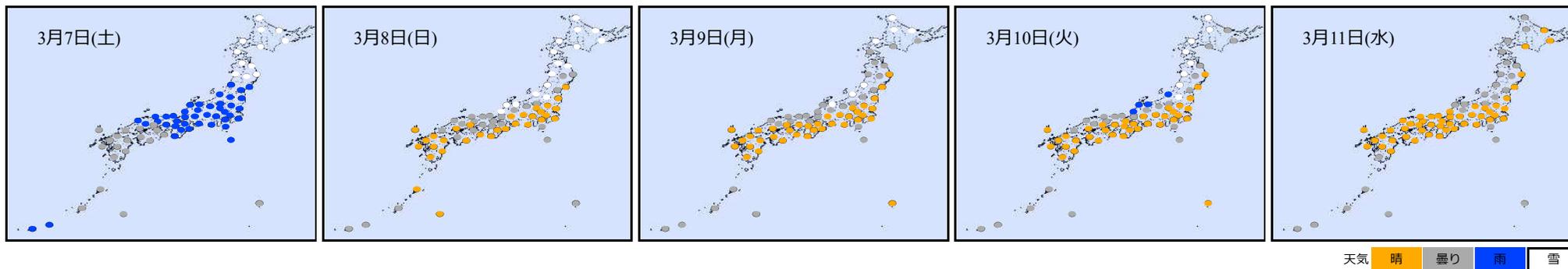
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 7日から8日にかけて、発達する低気圧の影響で北日本を中心に荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては大荒れとなる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

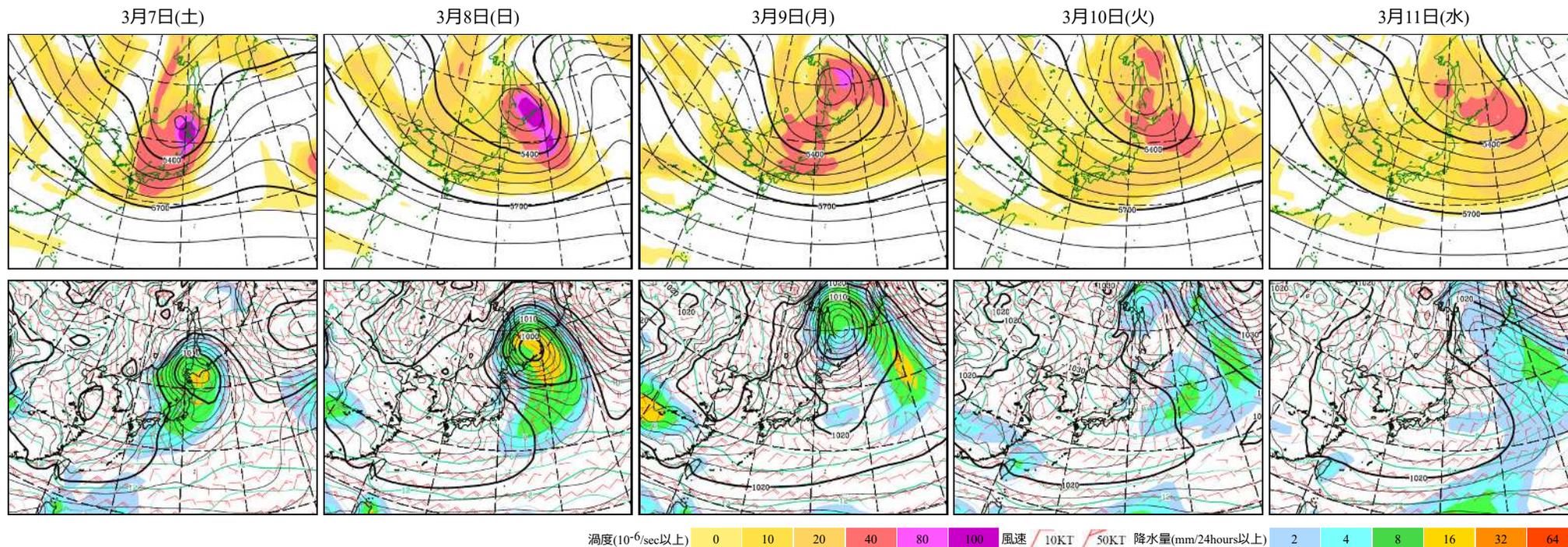
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

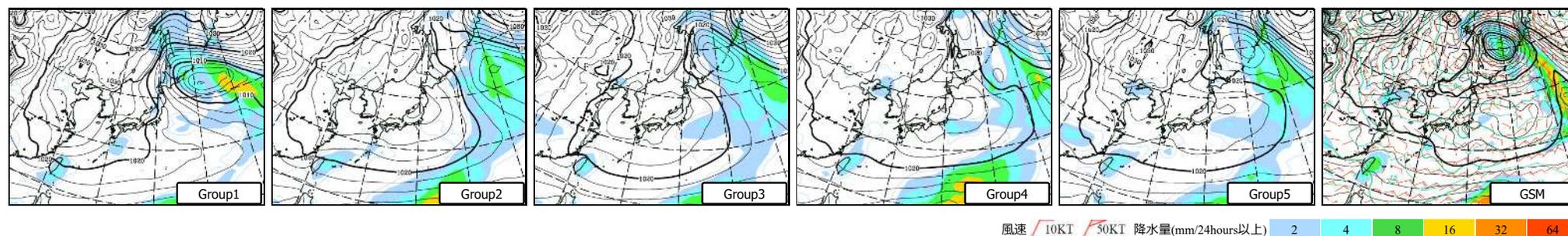


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、7日は雨または雪の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、7日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8日から9日にかけて、千島近海からオホーツク海に北上する低気圧が強くなり、北に寄った。9日は、大陸の高気圧の本州付近への張り出しが強くなった。10日は、日本の東の低気圧が弱くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、7日は、西日本で低くなった。10日は、北日本で低くなった。
- スプレッドは期間の終わりにはやや大きくなり、特定高度線のばらつきも大きくなるが、期間半ばまではばらつきは小さい。
- 7日から9日にかけて、北日本付近からサハリン付近に低気圧が北上すること、9日に日本の東で低気圧が発生することは各モデル一致しているが、日本の東の低気圧の位置や強さ、その後本州付近に移動してくる高気圧の位置はモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。